

## 理科好き小学生への学習機会の提供

昨年に引き続き今年も、島根県立三瓶自然館サヒメルと島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センターの共催で「サヒメル科学探検隊」を開催した。科学探検隊2019は、三瓶自然館の学芸員を隊長とし、隊員は小学校4年生から6年生の理科の好きな児童12名で、全5回の活動が予定されている。今年の探検隊員はすべて島根県内からの参加であった。参考までに、三瓶自然館と島根大学生物資源教育研究センターの共催は三瓶演習林で実施する第4回のみである。

令和元年10月27日に実施された三瓶演習林での探検のテーマは「樹木はどんなふうが大きくなった？大学の研究者と一緒に活動しよう」である。樹幹解析を通して樹木の成長を体感させる内容である。当日は、演習林教員および技術職員の指導のもと樹齢18年、胸高直径12cm、樹高13mほどのスギ1本を、子ども達自身で伐倒、玉伐り、円盤採取をした。伐倒は、事前にロープ掛けをしておいた対象木を、手ノコを用い、受け口、追い口をいれて行った。伐倒経験はもちろん、ノコギリを手を持つのも初めての子ども達もいたが、ケガなく玉伐りそして円盤を採取することができた。三瓶演習林の講義室では、午前中の伐倒作業で疲れてしまい眠い目をこすりながらモノサシと鉛筆を駆使して山から持ち帰った円盤の直径を測定し、樹幹解析図を作成した。完成した樹幹解析図をみながら伐倒した樹木の成長過程を全員で検討した。質疑応答の時間には、全員が予習してきたことをベースにいろいろと質問や意見発表があり子ども達の積極性に感動した。終了時には、ヤニのでてきた円盤をチャック付き袋に入れて各自お土産として持ち帰っていった。

三瓶自然館と共催することで、参加児童の募集、事務連絡、保険関係、移動用車両手配など、すべて「おまかせ」にできてしまい、直営で実施していた公開講座とは負担感がまったく異なり「楽」である。子供たちとの活動は「楽」しくもあり、令和2年度も引き続き開催したい。



写真：講義室での検討時間の様子（島根大学三瓶演習林庁舎にて）